



空襲を受けて壊滅した日本石油秋田製油所

あきたノスタルジー

秋田の昔を、写真で振り返ります。

昭和20年8月14日の終戦前夜、土崎地区は米軍機による激しい爆撃を受けました。午後10時30分ごろから始まった空襲は、翌日午前3時ごろまで約4時間も続きました。

標的となったのは、当時日本有数の石油基地だった日本石油秋田製油所です。製油所は炎上し、壊滅。周辺は日中よりも明るいくらい、真っ赤に燃え上がったといえます。

この夜、土崎の空を飛んだ爆撃機は132機、投下された爆弾は約12,000発。

空襲による爆風や火災で、92人の市民が命を落とし負傷者は約200人にのぼりました。

約12時間後、戦争は終わりました。土崎の町には焼けた民家が残り、たくさんの負傷者があふれていました。

戦争…。決して忘れることのできない悲しい風景です。



新・はまなすはみた
土崎空襲

新・はまなすはみた — 語りつぐ土崎空襲 —

昭和56年に出版された前作「はまなすはみた」に、その後集まった被爆者の体験談などを加え、「新・はまなすはみた」を発行しました。空襲による被害の状況や人々の声を絵と詩文で伝えます。小学校低学年から大人まで読める内容です。この夏、人の命の大切さ、平和の尊さをもう一度考えてみませんか。



佐々木久春 / 文
佐々木良三 / 絵

土崎港被爆市民会議 / 編集
定価 / 1,260円(税込み)

問い合わせ

秋田文化出版社 ☎(864)3322

土崎港被爆市民会議の高橋茂さん ☎(845)7479